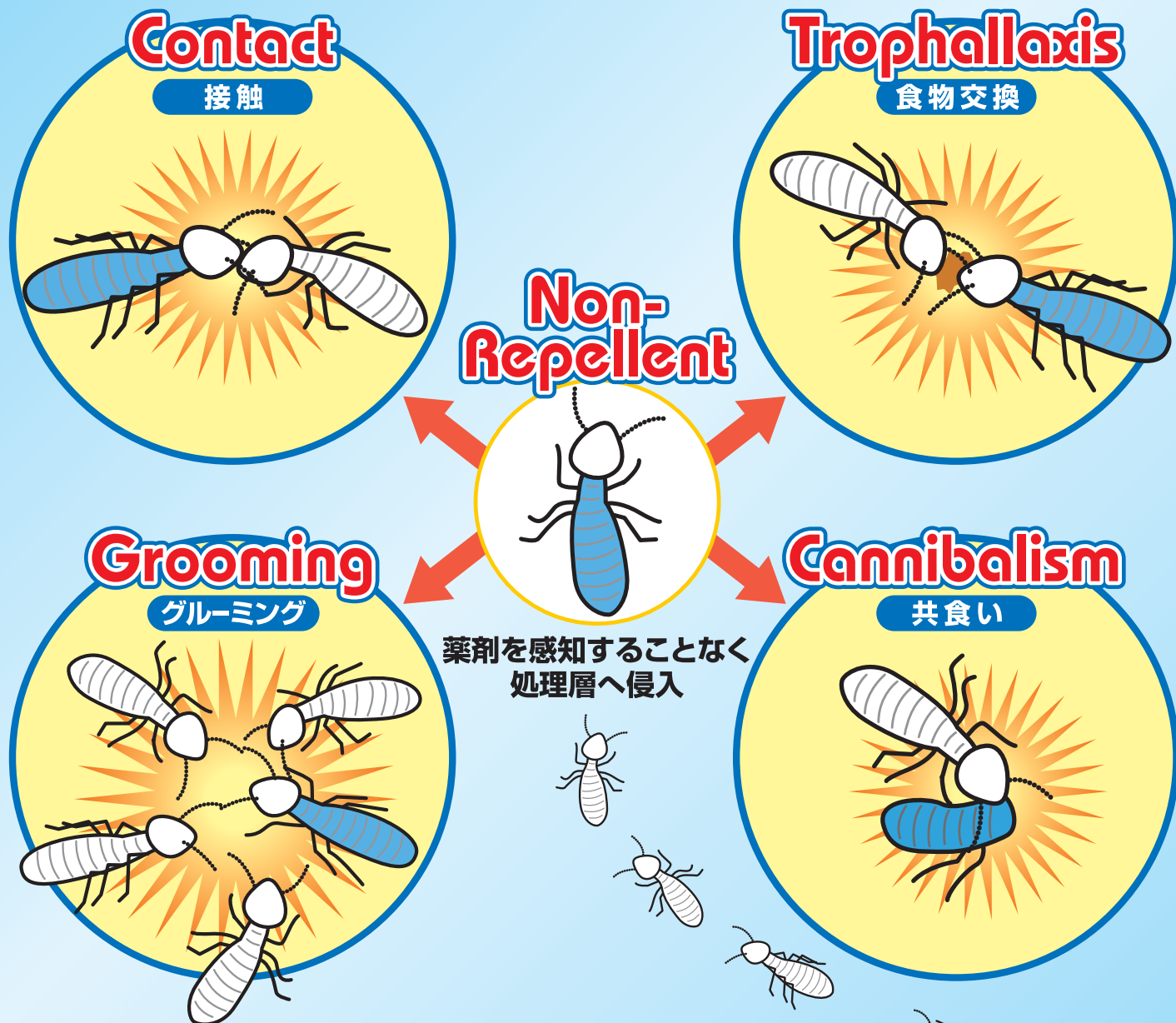


# “ドミノ効果” に関して

ハチクサンは、シロアリへ薬剤を感知させる事無く効き目を発揮し、  
取り込んだ薬剤を仲間へも伝播させて行きます。  
これがシロアリ防除剤ハチクサンの“ドミノ効果”です。



バイエルのシロアリ防除剤

# ハチクサン<sup>®</sup>

®はバイエル クロップサイエンス (株) 登録商標



Bayer Environmental Science

# “ドミノ効果”の主な特長

- ハチクサンを体表面に付着させたシロアリは、そのまま仲間と接触します。
- 仲間同士でグルーミングを行う際に、体表面のハチクサンは他のシロアリに取り込まれます。
- ハチクサンを体内に取り込んだシロアリは、活動が鈍りやがて死亡しますが、その間にも食物交換などで他のシロアリへ薬剤が伝播されます。
- ハチクサンで死亡した仲間を埋葬する時に、口から薬剤を取り込みます。
- ハチクサンは幅広い濃度でシロアリに対して安定した効果を発揮する事が出来ますので、“ドミノ効果”によって薬剤が拡散しても、確実にシロアリを防除します。

ハチクサンは、単なる殺虫作用だけでなく、社会性昆虫であるシロアリの本能をうまく利用することで、より効率的かつ確実にシロアリを防除できる特性を持っています。シロアリの本能的活動を通して、薬剤が次から次へと仲間のシロアリに伝播され効果が発現することを“ドミノ効果”と呼び、ハチクサンの安定した高い評価は、この“ドミノ効果”によっても得られています。

## グルーミング



写真中央で転倒している職蟻(矢印①)は、ハチクサンにより中毒症状を呈しています。その周りを、健康な職蟻が忌避する事なく取り囲み、触覚で確認したり、口器でグルーミングしたりしています。このような通常の社会性行動(相互の確認、体の清掃など)により、ハチクサンはシロアリの仲間へ伝播され“ドミノ効果”を発現して行きます。

## ドミノ効果

## 共食い



これら(矢印②)のシロアリは、ハチクサンにより死亡した職蟻で、それを健康な仲間が共食いしています。この写真の場合、シロアリの下部(歩行する時に地面に接触している部分)から共食いしていますが、この部分はより多くの薬剤が付着していると思われ、より効率良く“ドミノ効果”が現れるものと考えられています。

写真からもわかる通り、ハチクサンには忌避性が殆どなく、直接薬剤に触れたシロアリに対しても、巣の仲間が何ら警戒する事無く接触し、薬剤を伝播させて行きます。これが“ドミノ効果”と言われている効き目です。

バイエル クロップサイエンスは、ハチクサンを始めとするシロアリ防除剤に関する試験研究を数多く行っており、今後も新たな知見や研究結果等を継続的にご紹介して行きたいと考えています。

®はバイエル クロップサイエンス(株)登録商標

●ハチクサンのご用命は

製造販売

バイエルクロップサイエンス株式会社  
エンバイロサイエンス事業本部

生活環境製品部

〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5  
www.bayercropscience.co.jp

(EL-10) 17.8.INT 印刷:平成17年8月